

平成30年6月改正版 (本建第86号)

# 土木工事標準仕様書

—東日本旅客鉄道株式会社編—

〈今回の改正概要〉  
詳細は、次ページ以降をご覧ください。

【日本鉄道施設協会ウェブサイト】 <http://www.jrcea.or.jp/>

平成30年9月中旬 発売予定 A4判・524頁

定価：5,184円(税込) 会員特価：4,644円(税込) 送料：600円

ご注文書

FAX (03) 5846-5393

ご送付先	〒
会社名 部 課 名	
お名前	
T E L	( ) —
申込部数	土木工事標準仕様書 部

■会員区分 1 普通(個人)会員 2 特別(法人)会員(会員No. ) 3 非会員

一般社団法人 日本鉄道施設協会 企画部 TEL (03) 5846-5300

## 土木工事標準仕様書 改正概要

本仕様書の主な改正内容は、下記の通りである。

## 1章 総則

## 1-6 関係法令等の周知

- ・外部委託する際に対象者へ関係法令等の周知を行う旨を追加  
【本設第 167 号】施設の保守を外部委託する場合の関係法令等の周知徹底に伴う具体的取り扱いについて（連絡）平成 22 年 6 月 16 日

## 1-10 主要機械器具類

- ・重要な測定機器類は、使用する台座等と一緒に校正を行う旨を追加  
平成 29 年 2 月 23 日花輪線田山・兄畑間館市T建築限界支障事象の対策

## 1-14 安全対策

- ・列車運行に支障する恐れのある仮設足場について、施工ステップに応じた安全性の検討を行う旨を追加  
【本建第 322 号】列車運行に支障する恐れがある仮設足場について（連絡）平成 30 年 1 月 5 日
- ・架空線に近接して足場を解体・組立する場合の足場は絶縁材を使用する旨を追加  
【本設第 671 号】足場組立・解体における感電事故防止および施工計画変更時の事故防止の取組みについて（連絡）平成 23 年 2 月 16 日
- ・停電工事着手後に架線に近接して行う作業の移動禁止措置について追加  
【本設第 369 号】停電工事着手前の架線近接作業禁止措置について（連絡）平成 28 年 9 月 16 日
- ・仮設物の仕上がり状態について日々の仕上がり状態の確認について追加  
平成 29 年 6 月 22 日 京葉線での足場板による架線支障事象の対策

## 1-15 環境対策

- ・解体等工事におけるアスベスト含有建材の取扱いについて追加  
【本設第 645 号】解体等工事におけるアスベスト含有建材の取扱いについて（連絡）  
平成 29 年 1 月 16 日

## 1-24 建築限界支障および電力設備等との離隔の確認

- ・建築限界支障および電力設備等との離隔の確認について追加  
平成 29 年 12 月 16 日 京浜東北線川崎・鶴見間架線断線事象の対策

## 1-25 工事記録

- ・工事写真の撮影で電子黒板を使用する場合について追加  
【本設第 67 号】施設関係の工事写真撮影業務における電子黒板の使用について（連絡）  
平成 29 年 4 月 24 日

## 2章 土工

### 2-15 地山補強土工（先行削孔方式）

- ・ 工法の使用実績を踏まえ、地山補強土工（先行削孔方式）を追加

### 2-16 地山補強土工（機械攪拌混合方式）

- ・ 工法の使用実績を踏まえ、地山補強土工（機械攪拌混合方式）を追加

## 7章 基礎工

### 7-3 打込み杭工

#### 7-3-3 杭の品質 ㊦ 鋼管杭 JIS A 5525

- ・ 鋼管杭に STK 材が使用されるようになったことから一般構造用炭素鋼鋼管 JIS G 3444 を追加

#### 7-3-9 現場継手

- ・ 溶接工の資格は大口径も対応できるよう変更
- ・ 溶接工の実務経験は杭基礎施工便覧（（公社）日本道路協会）を準用し、6ヶ月以上と定めた
- ・ JIS 改正によりワイヤーおよび溶接棒の名称が変更したこと、JIS A 7201 にワイヤーおよび溶接棒の記載があるため、ワイヤーおよび溶接棒の名称等を削除
- ・ 使用実績から無溶接継手を追加

#### 7-3-10 杭頭処理（2） 鋼管杭のずれ止めの取付け

- ・ 鋼管杭ずれ止め溶接の溶接工の資格に半自動溶接を追加

### 7-4 場所打ち杭工

#### 7-4-6 孔内水の管理

- ・ セメント系で改良された地盤において、杭径不足が発生した事象を鑑み安定液の管理について追加

#### 7-8 回転杭工

- ・ 工法の使用実績を踏まえ、回転杭工を追加

## 10章 鋼構造物の製作

### 10-10 溶接継手

#### 10-10-13 スタッド溶接

- ・ スタッド溶接部の品質確認方法の追加

## 12章 一般鋼構造物の製作・運搬・建方

### 12-8 溶接

#### 12-8-10 欠陥の補修方法

- ・ 溶接部陶に発生した欠陥の補修方法について追加

## 19 章 鋼構造物の橋桁部材修繕工

### 19-7 き裂補修工

#### 19-7-1 高力ボルトによる補修工

- ・高力ボルトによる補修に関する具体的な施工方法の項目の追加

### 19-8 ストップホール工

- ・孔明け後の磁粉探傷試験等について追加

## 20 章 トンネル修繕工

### 20-1 剥落修繕工

#### 20-1-5 当て板工法

- ・当て板材は難燃性の材料を使用することを追加
- ・架空線等がある場合の防水断熱材の施工について追加
- ・建築限界支障および電力設備との離隔の確認について追加

#### 20-1-7 吹付け工法

- ・建築限界支障および電力設備との離隔の確認について追加

### 20-3 トンネル導水工（U・Vカット工法）

#### 20-3-4 材料

- ・導水材について難燃性の材料を使用する旨追加

#### 20-3-8 品質管理

- ・建築限界支障および電力設備との離隔の確認について追加

### 20-4 トンネル樋取付け工

#### 20-4-6 品質管理

- ・建築限界支障および電力設備との離隔確認について追加

## 21 章 のり面・斜面修繕工

### 21-3 のり面・斜面刈払い工

- ・工事の施工に先立ち、ケーブル等の確認方法について追加

【本設第 64 号】除草作業における仮設ケーブル等の損傷防止対策について（連絡）

平成 29 年 4 月 25 日

## 24 章 塗装塗替工

### 24-5 素地調整

- ・塗料に鉛等有害物が含まれる場合は粉じん対策を行うことについて追加

【本設第 662 号】鉄けた塗替塗装工の素地調整における土木工事標準仕様書の追加仕様について（連絡）平成 29 年 1 月 30 日

## 26章 耐震補強工

- 26-10 棒状補強材土構造物耐震補強工（先行削孔方式）
  - ・ 工法の使用実績を踏まえ、棒状補強材土構造物耐震補強工（先行削孔方式）を追加
- 26-11 棒状補強材土構造物耐震補強工（機械攪拌混合方式）
  - ・ 工法の使用実績を踏まえ、棒状補強材土構造物耐震補強工（機械攪拌混合方式）を追加
- 26-12 タイワイヤー土構造耐震補強工
  - ・ 工法の使用実績を踏まえ、タイワイヤー土構造物耐震補強工を追加

## 29章 沓座および桁座修繕工

- 29-5 打替え工（プレバックドコンクリート工法）
- 29-6 打替え工（コンクリート・モルタル打込み）
  - ・ 打替え工の仕様を工法毎に記載するため、プレバックドコンクリート工法とコンクリート・モルタル打込みについて分けて記載
- 29-7 注土工
  - ・ 施工実績を踏まえ、注土工の材料、施工（削孔、洗浄等）に関して追加
- 29-8 隙間調整工
  - ・ 施工実績を踏まえ、上下沓間の隙間調整に関して追加
- 29-9 桁座面導水工
  - ・ 沓座の無い鋼板沓等の桁座面導水に関して追加
- 29-10 施工記録
  - ・ 上記施工内容の追加に伴い検測記録を追加
- 29-11 工事写真
  - ・ 上記施工内容の追加に伴い項目の追加

## 付属資料

- 1-3 構造物の仕上がり寸法
  - ・ コンクリート構造物について、設計マニュアル記載の排水勾配の数値を追加
- 1-4 構造物と電力設備との離隔について
  - ・ 電気設備実施基準に基づく離隔距離および電力設備との離隔測定箇所について追加
- 18-3 接着系あと施工アンカーの長期持続荷重確認試験
  - ・ 試験の確認方法を追加（公的な第三者機関もしくは監督員等による立会い）
  - ・ 引抜試験時に母材（コンクリート）破壊を防止する試験方法に変更
  - ・ 引抜試験結果のばらつきを考慮する評価方法に変更

18-4 接着系あと施工アンカーの耐アルカリ性試験

- ・試験の確認方法を追加（公的な第三者機関もしくは監督員等による立会い）
- ・試験評価対象範囲の見直し（割裂試験も評価の対象としてもよい）

30-1 消火器保管箱の材料の形状および構造

- ・新設・交換を行う消火器箱について、開閉防止措置を施した構造とする旨を追加

参考資料

2 構造物施工記録表

- ・回転杭の施工記録表のフォーマットを追加
- ・電力設備等の離隔測定記録表のフォーマットを追加